

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17101007	人工複合糖質プローブの創製と高次生命機能の制御	木曾 真 (岐阜大学・応用生物科学部・教授)	A/F
<p>本研究は、ガングリオシド及びプロテオグリカンとそれらが関わる生体機能を取り上げ、化学合成による人工プローブの作成を基盤とした複合糖質が関与する、がん、免疫、脳神経などの機能解明や制御を目的としている。この2年間については(1)シアロオリゴ糖類の合成における合成効率の向上や脂質導入における合成法の開発に進展がみられ、(2)合成糖脂質プローブを用いた免疫などの生体機能研究にも幾つかの成果を得ており、研究は着実に進展しているものと判断する。</p> <p>一方、本研究課題の今後の進展の鍵は、精密合成による多様な設計分子プローブの作成と供給に異存しており、現研究体制では手薄な印象が否めない。</p> <p>これまでの類比的な分子設計にとどまることなく、生体内複合糖質の機能解明に革新をもたらすような人工プローブを是非開発してほしい。</p> <p>特記事項：上記の学術的な評価とは別に、本研究課題において研究分担者による研究費の不正使用が行われていたことが明らかになった。研究分担者によるものとはいえ、本研究課題において、研究費の不正使用が行われたことは、誠に遺憾である。不正に使用された研究費はすでに返還され、不正使用を行った研究分担者の応募資格を一定期間停止するとともに、研究代表者及び他の研究分担者に対しても1年間の応募資格の停止が行われたが、研究代表者・研究分担者は猛省し、今後、このようなことが絶対に生じないように、姿勢を正していただきたい。</p>			